

## 水辺空間活用（舟運）ワーキング 第10回 議事要旨

日時

令和4年3月28日（月）10:00～11:30

### 1 委員一覧

別紙 名簿のとおり

### 2 議題

- (1) らくらく舟旅通勤第二弾について
- (2) 舟運活性化に向けた取組について

### 3 議事要旨

#### (1) らくらく舟旅通勤第二弾について

- ・競合ルートとの調整、考え方を知りたい。既存のものとのしっかりとした棲み分けを望む。(港湾局)

→通勤時間帯で設定しており、時間帯として今のところ定期航路で運航はない。また、通勤をターゲットとしている点でも競合しないと考えている。(事務局)

- ・当初から民間の事業者による自走を目的としている。通勤客に目をつけ、実験するのはいいこと。ただし、自走を考えると実行計画を綿密につめる必要がある。将来の自走化において原価計算を考えると何人の乗船が必要かなど、計画段階でも目標値をたてるとよい。(篠原准教授 (アドバイザー))

- ・雨天対策が必要。オンライン決済の際のキャンセル料はいくらにするかなども。(篠原准教授 (アドバイザー))

→舟の屋根付き・なしなども検討していく。周知もしていく。キャンセル料についても検討する。(事務局)

- ・運航開始にあたり、告知にはリードタイムが必要。10日前くらいにマスコミ向け乗船会などを実施し、1週間前にマスコミに一斉に報道してもらうと有効。本日まで参加の区の方々も様々アプローチしてもらい、多面的に告知を実施してほしい。(篠原准教授 (アドバイザー))

→マスコミ向け乗船会など検討したい。(事務局)

- ・社会実験ということで定額 500 円だが、今後のことも考えると実際に即した料金の検討も重要。(屋形船東京都協同組合 理事長)
  - ・事業化にむけて実験を通じて一般の方にどのくらい知ってもらえるかが重要。(東京湾遊漁船業協同組合 理事長)
  - ・検証項目のページは、事業者側の検証が主になっている。利用者側（需要側）の検証項目も早期にたてるべき。通勤者のほとんどは鉄道を利用している。どういうターゲットのどういうシーンを想定しているのかを明確にしていくべき。(清水教授（主査）)
- 感度分析をしてどのくらいの方が乗船してくれるかなど、丁寧に分析していきたい。また、想定される利用者が勤務する企業に対し、チラシだけでなく説明などもしていきたい。(事務局)

## (2) 舟運活性化に向けた取組について

- ・色々なところで、色々な活動が行われている。有機的に結び付けていくために、情報共有が重要。現場の声もとても重要。3年ほど前、舟運のロゴマーク（船着場案内サイン）をつくったはずなので、うまく活用していくべき。(篠原准教授（アドバイザー）)

## (3) その他

- ・色々な取組が色々なレベルで行われている。いかに情報を集約するか。港湾局が DX で管理を容易にする取組を紹介していたが、こういった取組も統一していくことも重要。観光含め、一つのチャンネルに統合されている方が利用者メリットになる。こういった基本を徹底すべき。(清水教授（主査）)
- ・今日の議論を是非具現化してほしい。(篠原准教授（アドバイザー）)
- ・一度舟運事業者を含め、議論する場が必要。色々な事業者の意見も聞かなければならない。(篠原准教授（アドバイザー）)

以上